ふすま同窓会報

第７４号
令和８年７月
一般社団法人
山形大学ふすま同窓会

ごあいさつ

一般社団法人山形大学ふすま同窓会　会長　**髙　　橋　　節**（人文２回）

山形の初夏の風物を代表する「さくらんぼ」は、昨年、一昨年と不作に見舞われましたが、今年は例年並みの出荷となりましたので、皆様から味わっていただけたのでないかと思います。一方で、クマの出没が各地で相次ぎ、「山菜採り」の自粛に加え、市街地への出没も見られ安心できない状態になっています。畢竟、野生動物との適切な共存関係の確立が急務の課題とされている状況とも言えます。

去る５月 16 日に、法人化後初の実質的な同窓会総会が開催され、会員総会では、43 名の代議員が選任され、続く代議員総会では、昨年度事業の実績報告及び決算の承認並びに役員の選任が行われ、新たな体制のスタートを切ったところです。

世情を見ると、国際的な紛争等が引き続く中において、諸物価高騰による経費の増高が顕著となっています。この影響は会の運営にも及んでいます。現在の会費水準を維持する中で、効率の良い運営を心掛けることを基本において今年度の事業計画を策定しました。

この中で、**会報について、会員への紙面での郵送を中止し、ホームページ（HP）への掲載に統一**させていただきました。会員の皆様に対する情報提供は同窓会活動で大切なことの一つです。既に、HP の構成内容の大幅な見直し拡充を行い、タイムリーな情報の提供に結びつけております。加えて、節減できた経費を新たな事業展開に結び付けられるように鋭意検討を重ね、順次展開してまいりますので、ご理解を賜りたいと思います。

なお、昨年まで会報の送付にあわせてご依頼しておりました会費納入のご案内については、後日ご案内いたしますので引き続きよろしくお願いいたします。

また、構成等を見直した**「ふすまの集い」**は第３回目を迎えます。下記要領により開催しますので、奮って参加いただきたいと思います。

令和８年度《ふすまの集い》開催のご案内

日　時：１０月３１日（土）　会　場：山形国際ホテル（山形市香澄町三丁目４番５号）
　　１６：００～　記念講演
　　演題：「山大卒講談師のできるまで　講談一席相勤め候」
　　講師：講談師　宝井琴鶴氏（人文学部第３４回卒）
　　１７：１０～　ティーデマン・ふすま賞授与式
　　１８：００～　懇親会
会　費：９，０００円（事前申込）

幹事長：杉原貴幸（人文 23 回）　　当番幹事：人文学部・理学部（23 回、40 回）

《参加の申し込み方法》
令和８年１０月９日（金）までに、次のいずれかの口座に会費を振り込んでください。
① ゆうちょ銀行振替口座（記号番号：02250－9－122713／山大ふすま同窓会）払込取扱票に卒業学部・年度も記載してください。
② 山形銀行普通預金口座（県庁支店：768693／山大ふすま同窓会幹事島津達也）／併せて同窓会ホームページの参加申し込みフォーマットに所要事項を入力し送信して下さい。

記念品贈呈：卒業後の節目の年（卒業 10 年：平成 28 年卒、卒業 20 年：平成 18 年卒、卒業 30 年：平成８年３月卒）の当日参加者に記念品を準備します。奮ってご参加ください。

学長就任のご挨拶

山形大学学長　出口　毅

私はちょうど40年前の1986年（昭和61年）3月に山形大学教育学部を卒業しました。ふすま同窓会の皆様とは学部は異なりますが、同じ大学の卒業生です。

大学制度は、第二次世界大戦後、アメリカの影響もあり、大きく変わりました。山形大学を含む「新制大学」が設置された1949年の教育改革により、戦前の大学制度は改編されました。また、1991年には大学制度の大きな転換が図られます。それまで大学設置基準により厳格に規制がありましたが、この年の改正、いわゆる「大学設置基準の大綱化」により、柔軟な教育内容を設計し、カリキュラムを編成できるようになりました。さらに、2004年には「国立大学法人化」があり、大学には大学改革がさらに強く求められるようになりました。

私は、1992年に着任しましたので、大綱化以降の本学における大学改革を経験してきたことになります。また、教育学部では1990年代から2000年代にかけて卒業生が教員になれない状況が続き、養成課程の縮小と新課程設置による再編と学部の転換を経験しました。さらに、需要低迷や私学の教員養成の参画などにより、量的な縮小と教職大学院の設置を含む質保証の強化が図られました。その後、2020年前後には教員不足が顕著になり、養成の拡大が求められ、教育においては現場との連携強化が必要となりました。今年度、本学において地域教育文化学部を教育学部に改組したのも、このような教員養成の動向によるものです。1990年代後半には学部改革に関わるようになり、学部長、副学長そして理事という経験に伴って、大学全体の改革への関与は大きくなっていきました。

このたび山形大学の学長に就任し、「つなぐちから。山形大学」の将来ビジョンを継承し、地域に根ざしながら、ともに未来を切り拓く大学づくりを進めていきたいと考えています。少子化や社会構造の変化、急速なデジタル化など、高等教育を取り巻く環境は大きく変化しています。その中で本学が果たすべき役割は、単なる知識の伝達にとどまらず、地域社会と連携し、新しい価値を創造できる人材を育成することにあります。

まず、教育面では、社会共創デジタル学環と教育学部完成後の学部とそれに接続する大学院の教育をどうするかについて議論を始めています。18歳人口の急激な減少が間もなくという段階に入り、これからの大学教育は、学部・研究科ごとに設定した、学生が卒業までに身につけておくべき資質や能力に基づき、大学入学後の教育による学生の成長を重視していかなければなりません。研究面では、研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくための「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。我が国の研究大学の一つとして、この事業を通じて研究力の発展に貢献していきます。

さらに、私たちは地域課題の解決と新たな価値創出の拠点として社会共創を推進しています。本学が重んじる“つなぐちから”とは、学問と社会、研究と学び、地域の課題と未来の可能性などを有機的に結び付け、新たな価値を生み出す力にほかなりません。

学生、教職員、卒業生、地域社会が誇りを持てる大学を築き、地域から世界へ発信する知の拠点として、持続的な社会の発展と人々のウェルビーイングの実現に挑戦してまいります。山形大学ふすま同窓会の皆さまには今後とも温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

【略歴】

1963年8月　山形県東根市に生まれる
1992年3月　筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了
1992年6月　山形大学教育学部講師
1995年10月　山形大学教育学部助教授
2008年4月　山形大学地域教育文化学部教授

2016年4月　山形大学地域教育文化学部長
2018年4月　山形大学副学長
2020年4月　山形大学理事
2026年4月　山形大学学長

理学部長就任のご挨拶

理学部長　富 松　裕

平素より、理学部の活動に多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。令和８年４月より理学部長を拝命いたしました。この場をお借りし、理学部の近況についてご報告申し上げます。研究は多岐にわたりますので、ここでは教育を中心にご紹介させてください。

理学部は、平成 29 年（2017 年）に従来の５学科制から１学科制（理学科）へ改組して以来、９年が経過しました。この間、令和５年（2023 年）にカリキュラムの一部改正を行い、現在に至っております。理学部に入学した学生はまず１年間の基礎的な学修を行った後、２年次進級時にデータサイエンス、数学、物理学、化学、生物学、地球科学の中から、各自の興味や関心に応じて専門分野（コースカリキュラム）を１つ選択します。１年次に幅広い分野に触れた上で専門分野を決められる仕組みは、卒業生からも高く評価されており、令和８年３月の卒業生を対象としたアンケート調査（回答率 93%）では、98.1%の学生が理学部における学修に「満足している」と回答しました。

また、専門科目約 80 単位のうち、約 30 単位分は自由に履修できるようになっており、物理学と地球科学を組み合わせるなど、分野横断的な学修も可能となっています。現在、気候変動やエネルギー問題、生物多様性の損失など、私たちは多くの複雑な課題に直面しており、これらは特定の専門分野だけで解決できるものではありません。理学部では今後も１学科制のもと、専門性の深化と幅広い学びを両立する学際的な教育を推進してまいります。このような取り組みの充実に向けて、同窓生の皆様からもご理解とご支援をいただければ幸いです。

昨年度には、新たな試みを２つ開始しました。まず、１年次の授業科目「サイエンスセミナー」を全国の高校生にも開講しています。理学部は将来の職業を具体的にイメージしにくいとの声もありますが、自然や現象のしくみを深く理解する中で培われる論理的思考力やデータ分析力、問題解決力は、研究・開発分野にとどまらず、IT、金融、製造、教育、自治体など幅広い分野で求められています。また、社会を支える多くの知識や技術は基礎科学の成果の上に成り立っていることは、皆さまご承知のとおりです。多くの高校生に理学部での学びを知ってもらい、関心が一層高まることを期待しています。昨年度は 22 名の高校生が履修しました。

さらに、昨年 12 月には茨城大学、信州大学、静岡大学など国立９大学理学部で連携協定を締結しました。今年度はその最初の取り組みとして、プログラミング学習支援イベント「国立９大学理学部 paiza ランクチャレンジ」を実施しています。paiza 株式会社の協力のもと、学生がオンライン教材を用いて各自の習熟度に応じて学習を進め、優れた成果を上げた学生や大学を表彰するものです。今後は教育・研究において各大学の強みを活かして資源を相互に活用し、単独では得られない相乗効果の創出を目指してまいります。

1967 年（昭和 42 年）６月に文理学部の改組により理学部が設置されてから、来年で 60 周年を迎えます。これを機に、同窓生の皆様とのつながりを一層深めるとともに、皆様からいただいたお声を今後の活動の充実に活かしていきたいと考えております。理学部の今後の在り方について、様々なご意見やご期待をお寄せいただければ幸いです。ふすま同窓会の皆様におかれましては、理学部の発展をともに支えていただくパートナーとして、今後とも変わらぬご支援とご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

略歴

1975 年７月	宮崎県宮崎市に生まれる
2003 年３月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程　修了
2009 年４月	東北大学大学院生命環境科学研究科助教
2013 年４月	山形大学理学部　准教授
2017 年１月	山形大学理学部　教授
2026 年４月	山形大学理学部　部長

令和８年度　ふすま同窓会総会報告

1　概要

令和８年５月16日（土）、理学部先端科学実験棟４階の「ふすまホール」を会場にふすま同窓会法人化以降最初の会員総会が開催されました。

「ふすまホール」は同窓会が視聴覚機材整備の支援を行った施設で「ふすま」の名称が冠されており、例年会場としております。

会員総会では、髙橋節会長（人文２回）が議長に選出され議事がすすめられ、代議員43名の選任が原案のとおり承認されました。（会員総会出席者数45名）

引き続き、会員総会で承認された代議員総会が開催され、①令和８年度収支決算、②理事13名の選任、③監事２名の選任が原案どおり承認されました。

代議員総会終了後、選任された理事・監事による理事会が開催され、髙橋節会長（人文２回）、遠藤直幸副会長（理１回）、佐藤護副会長（人文６回）、尾﨑秀真常務理事(兼)事務局長（人文10回）が選定されました。

会議終了後、小白川キャンパス内の厚生会館食堂に会場を移し、懇親会が開催されました。来賓として出口毅学長、森岡卓司人文社会科学部長、新井真人理学部副学部長にご出席いただき、長沼龍平同窓会顧問（文理８回）の乾杯で懇談が始まり、加藤学関西支部長（人文３回）、宍戸勇仙台支部長（文理15回）、戸石健二山形支部長（人文１回）のスピーチもあり、大変な盛り上がりとなりました。（懇親会出席41名）

2　会員総会

議事

代議員43名の選任について

3　代議員総会

報告

○　令和７年度事業報告(令和７年10月１日～令和８年３月31日)について

議事

○　令和７年度収支決算(令和７年10月１日～令和８年３月31日)について

○　理事13名の選任について

○　監事2.名の選任について

4　理事会

議事

役員の選定について

林　　義　和（人文13回）

令和７年度ふすまの集い

令和７年度は、ふすま同窓会が「一般社団法人山形大学ふすま同窓会」としてスタートした年であり、また、幅広い世代が名実ともに一体となったことを表したいと「ふすまの日・ふすまの夕べ」から「ふすまの集い」と名称を変更した２年目の年となりました。

令和７年度の「ふすまの集い」は令和７年10月18日㈯に山形市の山形国際ホテルにおいて、多くの同窓生・関係者に加え、現役学生からも出席いただくとともに、若手会員からも参加いただきたいとの思いで、卒業後10年を経過した節目の第45回卒の方々にも参加いただき、盛大に開催されました。

また、同日に開催された、山形大学理学部卒で同窓会会員でもある海洋生物写真家の高橋怜子さんによる「講演会」と、学生の学術研究を奨励する「ティーデマン・ふすま賞授与式」にも多くの方々に参加いただきました。

午後６時、山形大学混声合唱団による学生歌「みどり樹」などの合唱が披露され、素敵な歌声による開会となりました。その後、ふすま同窓会の髙橋会長からご挨拶いただき、来賓を代表して山形大学の玉手学長から大学の近況等も含めてご祝辞を賜りました。そして、札幌よりご参加いただいた、第一回ティーデマン賞の受賞者でもある紺谷友昭氏（文理第10回卒）の音頭で声高らかに乾杯、歓談に入りました。

歓談中は、山形大学の森岡卓司人文社会科学部長、並河英紀理学部長からそれぞれの学部の状況等についてお話いただくとともに、校友会学生幹事や模擬裁判実行委員会委員等の現役学生13名が紹介されました。時間が経つにつれ、会場内は久しぶりに集まった同級生や先輩・後輩が時代や学部を超えて親睦を深める様子が見られ、大いに盛り上がりました。

最後は、今回特別参加となる、第45回卒の大通さん、佐々木さん、長岡さんの三名による「やまがたフルーツ締め」で会を締めくくりました。「やまがたフルーツ締め」は、やまがたフルーツ150周年を記念し、「山形花笠締め」のように県民が愛着を持って各種会合等で披露・活用できる手締めとして県で考案されたものです。そのキャッチフレーズである『いちずに、かじつ』『やまがた、かじつ』という言葉には、くだものづくりに打ち込んできた先人たちへの感謝の思いが込められており、まさに長年このふすま同窓会を支え、一途に伝統を守り続けてくださった先輩方の姿そのものにもつながります。先輩方が大切に育ててこられた絆という果実を、私たち後輩もしっかりと受け継いでいきたいという思いを込めての手締めとなりました（実は、同窓会会員による考案だとか…）

結びに、「ふすまの集い」の益々のご盛会を祈念申し上げますとともに、本会の開催にあたりまして、ご多忙の中、多大なるご協力をいただきました皆様に、あらためて厚く御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

当番幹事　大瀧亜樹（人文22回）

第 37 回　ティーデマン・ふすま賞授賞式

第 37 回（通算 56 回）ティーデマン・ふすま賞の授賞式が令和 7 年 10 月 18 日(土)にふすまの集い時におこなわれた。受賞者は人文社会科学部グローバルスタディーコース令和 7 年 3 月卒業の中村陽さんと理工学研究科修士課程令和 7 年 3 月修了の佐藤杏樹さんの 2 名です。

論文の概要

気候移民対応の行方

人文社会科学部グローバルスタディーコース卒業
中　村　　陽

気候変動は、異常気象だけでなく安全保障上の問題でもあるとの認識が広まり、実際に気候移民の数が増加しているにも関わらず、その対応についての議論は進展していない。本論文は、その理由と国際社会が気候移民にどのように向き合うのかを明らかにすることを目的としたものである。考察にあたり、各国の移民・難民政策に大きな影響を与えている国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と、実際に多くを受け入れているドイツ及びオーストラリアの分析を行った。

気候変動を理由に移動する人々を表す言葉は現状 1 つに定まっておらず、国際法に環境難民の定義は存在しないため、UNHCR は彼らを難民と認定することに否定的である。また、その影響力から鑑みて UNHCR が見解を変えない限り、国際社会で彼らは、あくまで移民の一部と見なされるだろう。

ドイツは、ナチス・ドイツへの反省を示すために在外同胞の保護に注力し難民にも寛容的だが、気候移民に関しては、その存在を認めながらも受け入れについては可能性にすら触れていない。これまでの国内で発生した排外暴力事件や基本的に移民は認めないという政府の排外的な側面を踏まえると、気候移民は、高度な技術を持つか避難の理由に紛争や迫害が関連しない限りドイツでは受け入れられないと考えられる。

オーストラリアには経済発展と人口確保のために外国人労働者を呼び寄せた歴史があり、安全保障に関する懸念と外交政策の一環として難民条約を拡大解釈した人道移民の受け入れを進めてきた。オーストラリアは気候移民への対応が進む国の 1 つだが、それはあくまでも条件付きのものであることから、安全保障や自国経済におけるメリットがない限り、気候移民の受け入れはしないと考えられる。

以上から、気候移民は彼らそのものでなく「重視する事柄」を通して対応が検討されており、様々に絡み合った利害関係が議論を進めるうえでの妨げになっていると考察した。

可視光高速測光装置 IMONY の ASIC システムにおける FPGA 処理系の開発

理工学研究科修士課程修了
佐　藤　杏　樹

本論文では、先行研究で開発された Imager of MPPC-based Optical photoN counter from Yamagata（IMONY）について、FPGA 内部での光子の時刻付けの処理の改善とシステム自体のアップデートを行った。

光子の時刻付けの処理については、デジタル回路内でその処理を担う各レジスタの遅延を計算し、それらが正確な挙動で動くよう、デジタル回路のコーディングを修正した。また、一部の観測モードで光子が連続で到来すると後続の光子検出を取りこぼすという課題があったが、デジタル回路内でのイベントデータ生成部分の判定方法を見直し、デジタル回路のコーディングを修正した。

また、先行研究のシステムは読み出し系が 4 系統並ぶ構成だったため、部品点数が多く配線の接触不良が頻発し安定性に課題があった。そこで、信号の読み出しを行う素子として新たに Application Specific Integrated Circuit（ASIC）を用いて、読み出し系を 1 系統にまとめる新基板システムを開発した。本論文では特に新システムの FPGA 内部のデジタル回路の開発を行った。具体的には、基板上のモジュールの制御、ASIC からのタイミングパルスの検出とデータ化、PC と FPGA とのデータ通信といった機能を開発した。

これらの機能はデジタル回路をコーディングすることで開発し、各機能の実装後にはダークノイズの観測実験と周期光源の観測実験を行うことで、100ns 単位で光子の時刻付けができていることを確認した。また広島大学のかなた望遠鏡に新システムを導入し複数のチャンネルで Crab パルサーの周期検出に成功した。この観測実験の結果から、新システムが天体観測に有用である可能性が示唆された。

学生等支援事業の概要について

ふすま同窓会は、昨年 10 月に一般社団法人山形大学ふすま同窓会として再出発をしております。これまで、の同窓会の事業は引き継ぎ、学生活動支援、大学協賛事業、大学教育活動の支援、会員の交流促進の 4 つの事業に取り組んで行きます。学生活動支援については、模擬裁判や海外留学、八峰祭など、さまざまな教育研究活動やサークル活動を対象に、学生が生き生きと活動し、意義ある学生生活を送ることを願うとともに、同窓会への関心を持ってくれることを期待しております。

第 53 回模擬裁判

令和 7 年 12 月 18 日(木)、19 日(金)の２日間、山形市民会館大ホールで「避行少年　～ボクの居場所～」をタイトルとした模擬裁判が公演されました。

人文社会科学部の学生を中心に、実行委員会を組織し、毎年行われる模擬裁判の公演は、ふすま同窓会も協賛し、開催されています。

今回のテーマは「少年法」、各方面への取材を丁寧に進め、裁判所や検察などの意見もいただきながら、公演の内容を検討し、稽古を重ねて公演されました。公演は、ゆったりとした口調で行われ、非常に聞きやすく、内容も分かりやすかったのでよかったと思います。

第５４回模擬裁判の公演は２０２６年１２月４日（金）、５日(土)に
「ＳＮＳ上の誹謗中傷」をテーマに山形市民会館で実施されます

第１５回　「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」

「第 15 回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和７年 11 月９日（日）に安達峰一郎博士の生誕の地、山辺町中央公民館で開催された。

弁論大会は、山形大学認定都市・地域学研究ユニットと山辺町ＮＰＯ法人の魅力再発見プロジェクトが主催をし、ふすま同窓会が後援している。

県内外から応募された原稿を審査し、通過した中学生６名、高校生５名が弁論大会に出場した。平和の大切さや多様性への理解、貧困の解決などを訴え、高いレベルでの弁論大会となった。最優秀賞には、中学生の部で、北海道・立命館慶祥中学校２年の宮本紗帆さん、高等学校の部では、富山県・富山国際大付属高等学校２年の西田七虹さんが受賞した。

宮本さんは、食品ロスと相対的貧困が同時に起きる社会に疑問を抱き、「あたたかい『いただきます』を」を演題にし、余った食品を持ち寄るフードドライブなど個々の積み重ねが解決への第一歩になると論じた。

西田さんは「平和は小さな一歩から」をテーマに、富山大空襲に遭った祖父より当時の話を聞き、祖父と共に取り組む語り部の活動などを紹介し、「戦争のない平和な時代は、望むだけではなく、今生きる私たちが作るものと論じた。

安達峰一郎博士は、山辺町出身の国際法学者で、アジア人として、初めて常設国際司法裁判所長を務めた。安達博士の精神を受け継ごうと、次世代を担う中学・高校生が博士の精神を学び、平和の意義を考える目的で本弁論大会が開催され、１５回目を迎えた。ふすま同窓会から、髙橋節会長が審査員として参画し、優秀者にふすま同窓会長賞として記念の盾と図書券を贈った。

山形大学　学生投稿コーナー

ふすまのそばのライラック

◇早坂未来音（人文社会科学部　地域公共政策コース 2 年）

◎自己紹介

　私は、宮城県で生まれ育ち、現在も宮城県から山形大学に通っています。将来、警察官になりたいと考えているため、法律や地域のことを学ぶことができる人文社会科学部法政経コースに入学しました。私が所属する部活動は「SALIBANDY 部」です。

　現在は、勉強、部活、バイトにと忙しくも充実した生活を送っています。

◎サークル・部活動

SALIBANDY 部

　フロアボールというスポーツを行う部活です。フロアボールは北欧発祥の室内競技で、6 人 1 チーム（フィールドプレイヤー5 人、キーパー1 人）で行うアイスホッケーを基にした団体競技です。大会も頻繁にあり、日々練習に取り組んでいます。

◎休日の過ごし方

趣味

・ドライブ

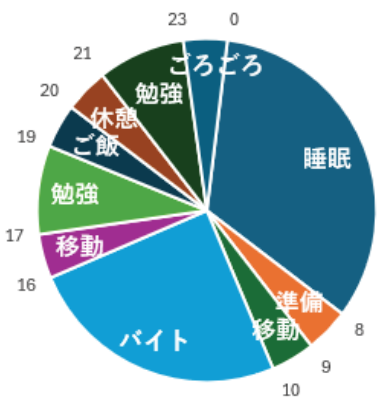
・映画、ドラマを見る

・音楽を聴く

ある日の休日

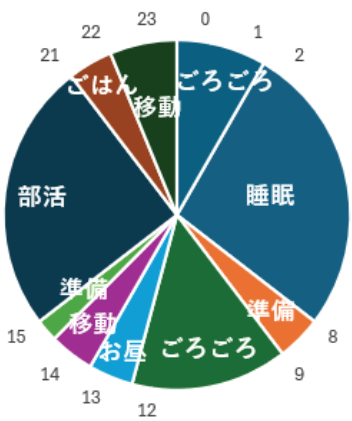
・ある日の土曜日

この日はバイトの日です



・ある日の日曜日

この日は部活の日です



◇玄地虹羽（人文社会科学部　地域公共政策コース２年）

初めまして。ふすま同窓会報の執筆担当、山形大学人文社会科学部２年の玄地虹羽と申します。このページでは、私が普段学んでいる授業や所属しているサークルについて、同窓会の皆様に紹介したいと思います。どうぞ最後までお付き合いください！

さて、まずは自己紹介をさせていただきます！私は山形県天童市出身で、小白川キャンパスの近くにある山形市内の高校を卒業しました。現在は実家から車で約２０分かけて通学しています。卒業後は県内で公務員として働き、地域に貢献したいと考えています。そのため、地域について学べるコースがあること、また実家から通える環境であることに魅力を感じ、山形大学へ進学しました。高校時代は、自分が山形大学に合格できるとは思っていなかったため、今こうして憧れだったキャンパスに毎日通えていることをとても嬉しく感じています。また、入学当初からアルバイトを続けており、１年経った現在はキャリアアップを目指して時間帯責任者に挑戦しています。新しいことを学び、吸収する毎日を送っています。

続いて、今回の記事は大学で一番印象に残っている授業についてお話したいと思います。

授業で海外へ！

山形大学には「学生派遣大使プログラム」という授業があります。このプログラムでは、米国、韓国、ベトナム、インドネシア、モンゴル、ラトビアにある海外拠点校へ山形大学の学生を派遣し、「学生大使」として活動します。現地では、先生の引率がなく、学生だけで２週間生活を送ります。私は１年次後期に、学生大使としてベトナムへ行きました。楽しみな気持ちで現地に到着しましたが、石のように硬く寝心地の悪いベッドや水圧の弱いシャワーなど、日本とは大きく異なる生活環境に戸惑い、「本当に２週間生活していけるだろうか」と不安を感じたことを今でも覚えています。しかし、現地の学校では日本語教室や英語の授業に参加し、学生との交流を深めることができました。また、世界遺産であるハロン湾へ連れて行っていただいたり、ローカルな街並みや食文化に触れたりと、旅行ではなかなかできない貴重な経験を数多く積むことができました。現地で初めてカエルを食べたことも、今では忘れられない思い出です。

こういった記事を書くのは初めてでうまくかけたかは不安ですが、最後までお付き合いいただきありがとうございました！

〈ベトナムのお金〉

〈現地の学生が最終日に用意してくれたケーキ〉

河北新報オンラインより

仙台支部

「山形大学の入学者に占める宮城県出身者が、2025 年度まで、地元の山形県出身者を４年連続で上回り、都道府県別のトップを維持している。

その訳として、仙台から高速バスを介して１時間で通学できる距離の近さに加え、学部数が多く、多方面の学びができるなどで、人気が高まっている事等をあげる。」【地元紙：河北新報 2026．3．20】

新制大学として発足の文理学部に限ってみると、第１回生から第 18 回生までの 18 年間生、年平均で宮城県出身者は 12 名と僅かで、このことは人文・理学部でも 20 回生（1990 年：平成２年）辺りまでは大きな変化がなく推移した。

転機となったのは、仙台～山形間の高速道路（自動車専用）が全区間整備された 2000 年以降にある。多くのバス会社の運航競争の末、宮城交通・山形交通の共同運行となり、年々運行本数の増加に伴い、通勤通学の利便性が格段に向上し、仙台～山形の日々の交流人口の増加と共に、仙台からの通学生の増加に繋がったのである。

因みに、現在、１日当たりの運行本数は、平日 80 往復で朝のラッシュ時は４分間隔、年間 170 万から 180 万人を運んでいる。

そして今、県内在住の卒業生は 2,800 名を超えふすま同窓会会員の２割を占める大きなエリアである。

潜在的には大きな力を持つ仙台支部であるが、現実に目を向けると残念な状況である。いわゆる正会員（会費を納めて会の活動に参加）の数が僅かであり、総数の１割にも満たない。理由は色々としても、同窓会の理念や活動の本意を広く浸透させ、理解を得て、一人でも多く参加してもらえるよう、日々活動を重ねていく事が肝要である。（ 現在、支部の統括や運営に当たる役員に求められている役割を心得て *!!* ）

令和８年１月 17 日開催 仙山交流会新春コンサート

宮　城　洋　三（文理５回）

山形大学での思い出

札幌支部

地域の違い、家庭環境に違い等、異なった育ちの違いが、当人の意思と関係あるなしを問わず、初めての場所で、いろんな個性と出会い、同じような状況の中で生活していく事になる。今考えてみると、山形での学業生活は私にとって、どんなに恵まれた環境であったかと思うのです。学業で暮らせたことが、仕送りなしで奨学金やアルバイトの経済で、４年間持ちこたえました。

国立大一期校を落ちて、少し落ち込んだ連中が集まってきたと思えて、暗くなりがちが始まりでした。いろんな先生の講義を聞いて自分の未熟さを反省して、段々と前向きになるしかなかった。

学業での４年間は、同期の連中はもとより、いろんな先輩と、いろんな後輩がいます。卒業して社会人となってからも付き合える人間関係を作れるのは、学業での共同生活の賜物です。賑やかで、煩わしい団体生活ではありますが、我ままは通らず適当に折り合いをつけていく、処世の知恵をつけていく場でもありました。

札幌に落ち着く事になっても、山形での４年間が自分にとっても、大変ありがたい大事な事だったと感謝しています。

昔の学寮生活を経験できない後輩たちには、我々の様な絆が出来ないのではないか、少々残念に思います。

島　田　良　廣　（文理１５回文）

奈 良 の 鹿 さ ん

関西支部

ちょっと大げさかもしれないが、奈良の鹿にどれだけ救われたか、知れない。

私の仕事は、日本に来る観光客を、外国語（私の場合は、英語とロシア語）で案内するガイドである。資格を取ってから十年以上になるので、だいぶ慣れたが、駆け出しのころは、毎回冷や汗だった。

で、そんな私を救ってくれたのが、奈良の鹿だった。私のガイドが下手でも、お客様は鹿を見ると、喜んでくださる。まさに「オウ、ディア！」である。そんな鹿が「コロナの時は、観光客からもらえる餌が少なくて、ずいぶん痩せました。」と私が言うと、お客さんはまた、どっと笑ってくれる。そんな鹿を蹴るなんてとんでもない！少なくとも、私は見たことはない。

加　藤　　学（人文３回）

東京ふすま会活動報告

東京ふすま会

本会は2025年度も活発な活動を行いました。以下に活動状況を報告します。

１．2025年度第1回常任理事会

5月10日　　会場：高円寺事務所

諸先輩方のご努力で35年前に設けられた「高円寺事務所」、常任理事会の会場となるほか、毎週の役員会など、会の運営に広く活用されている。都内にこうした自前の事務所を持って活動できるのは本当にありがたいことである。

２．2025年度理事会及び総会

5月31日　　会場：日本教育会館喜山倶楽部

前年度総会に続き本部より高橋会長のご参加を頂いた。理事会及び総会での議事に続いて、山本幸雄氏（人文1回）の記念講演、「野鳥と私ー幸せの記録ー」が行われ、全国各地で撮影した野鳥の写真とそれに纏わるエピソードを披露した。懇親会は参加者が互いの健勝を確認し合い、和気藹々、和やかな会となった。

第16回懇親芋煮会

会場の若洲キャンプ場が改修工事のためやむなく中止。東京では、芋煮会が開催できて皆が集まりやすい場所を探すのは本当に難しい。改修工事は次年度にまたがる可能性もあり、代替会場の確保が急がれる。

３．第36回見学会

11月22日、講談師宝井琴鶴師匠（綿貫麦氏・人文34回）の案内による「上野の森　歴史散策」を挙行、23名が集まった。当日は、まさに絶好の散策日和であった。かつては寛永寺の寺領であり、幕末の彰義隊の戦いの舞台ともなった上野の山一帯は歴史散策に格好の地。存分に散策を楽しんだ後は同師の講談そして昼食会と、一同秋の一日を満喫した充実の見学会となった。

４．2025年度第2回常任理事会

書面開催

５．新年懇親会

2026年1月24日　会場：日本教育会館喜山倶楽部

本部から、高橋会長、尾﨑事務局長にご出席を頂戴した。恒例の新春トークは、野田順一氏（人文8回）の「ボランティア活動 - 野球審判」と、久保田明菜氏（人文37回）「近況報告2026」。野田氏は、当日持参した、実際に審判が身につける用具についての説明も交えながら、野球審判のあれこれについて興味深い話を披露、久保田氏はアナウンサーやラジオ番組の司会など自身の職業経験を通じて考えるコミュニケーション術について語った。当日は旧制山高の先輩も2名お見えになり、新年にふさわしい賑やかな会となった。

６．会報「乾坤」の発行

予定通り年3回、162号・163号・164号を発行した。会員をつなぐ重要なツールとして、また当会活動の貴重な記録として、今後とも定期発行を続けていく予定である。

７．部活動

上記全体活動のほか、会員有志による部活動として、ゴルフ部、読書部が定期的に活動を行っている。読書部は、古今東西の名著、その時々の話題作などから1冊を選び、3ヶ月に1度、高円寺事務所での読書会を開催。ゴルフ部は、定期コンペに加え、10月19日に蔵王カントリークラブにて山形部会との合同コンペを行った。山岳コースならではの高低差に驚きながらも故郷でのラウンドを満喫することができた。

最後に26年度も多様な活動を行っていく予定です。本稿をお読みになって当会に興味を持たれた方、入会を希望される方はぜひご連絡ください。当会の連絡先は、

TEL & FAX ： 03-5378-5005

E-mail ： tkyfusumakai@tkyfusumakai.jp

皆さまのご連絡をお待ちしています。

寺　﨑　　誠（人文9回）

「この気候変動に負けないで頑張ろう」

山形支部

令和７年から８年にかけての今年の冬は、県内では豪雪の地区もある中で、どういう訳か山形市近辺だけは少雪のまま春を迎えました。

山形大学小白川キャンパスから、北へ徒歩で 15 分ほどの所に日本一の芋煮会の会場となります馬見ヶ崎川が流れておりますが、その下流の県護国神社脇の河川敷が、例年主な排雪場所になります。それが今年は閑古鳥が鳴く有様でした。

この記事を書いているのが５月中旬ですが、早くも30℃超えの日々が続いたり、また 20℃に届かなかったり・・・。これからの夏はどうなるのだろうかと案じられます。

皆さんのところはいかがでしょうか。

さて、令和８年度のふすま同窓会の本部総会が令和８年５月１６日（土）、小白川キャンパス内の、理学部棟にある「ふすまホール」で開催され、ふすま同窓会会員総会、代議員総会等に引き続き、山形支部総会も開催されました。

次に、山形支部の令和７年度事業について、簡単に振り返っておきます。

【談話会（小旅行）】

第１回（談話会）

令和７年６月 20 日（金）、郡山女子大学短期大学部教授で人文 11 回の會田容弘先生に、「猪苗代湖畔に立った最初のホモ・サピエンス」―笹山原遺跡発掘の 25 年―というテーマで、映写を交えながら興味深いお話をいただきました。

第２回（小旅行）

10 月 11 日（土）に、参加申し込みをしてくれた会員 26 名が貸切バスで酒田市を探訪しました。この日は、時折小雨に降られた時もありましたが、いろいろな施設なども見られ、中身の濃い充実した見学ができました。

この日、『酒田市探訪』として見学した箇所は、「酒田火力発電」、「酒田市文化資料館光丘文庫」、「国史跡城輪柵跡（出羽国府跡）」、「国史跡山居倉庫」、「いろは蔵パーク」でした。

多くの箇所をみんなと一緒に巡ることができ、改めて、酒田市在住の３名の会員の方には、いろいろお力添えをいただき、厚く感謝する次第です。

第３回（談話会）

令和８年２月３日（月）同窓会館で７年度をもって山形大学学長を退職される玉手英利先生から、「山形大学の過去・現在・未来」という題でお話しいただき、映写を入れながら、楽しいひとときを過ごさせてもらいました。

その後の講師を囲んでの、恒例の「恵方巻を食べる会」でも大いに盛り上がり、会場は先生に感謝を込めての、思い出に残る楽しい懇親会となりました。

【山形・仙台支部交流いも煮会】

令和７年９月 13 日（土）に、本部主催による山寺でのティーデマン碑供養が行われました。その後の山形と仙台支部との交流いも煮会は、門前の「ふもとや本店」で開催され、仙台からの参加者９名を含む総勢 29 名で、賑やかで楽しいひとときを過ごしました。

山形支部長　戸石健二（人文１回）

笹 原 日 記

加　藤　　学（人文３回）

山形、東北紀行その１

同窓会総会に合わせて、4 日間の東北旅行をしている。

ここにきて、自分が関西という、まあ都会で生活していて、「劣化している」のではないか、と思ってしまう。モモの時間泥棒ではないが、何か常に時間を気にして、焦って生きているのではないかと感じるのだ。道路を渡る時、赤信号でも車がこなければ、渡ろうとしてしまう自分がいる。今は、時々ガイドをしているとはいえ、リタイヤの身であるにもかかわらず、だ。

山形県の、超ローカル鉄道である、長井フラワー鉄道に乗った。義弟夫婦が長井市のふるさと納税をしていて、その一日乗車券が送られてきたのだそうだ。ちょうど山形に行く用事があるから、とその券を使わせてもらうことにした。しかし、この鉄道のダイヤが一時間に一本くらいしかないことが、わかった。無人駅のような駅舎でぼーっと 1 時間過ごすことを想像し、「焦って」耐えられない自分を発見してしまった。本を読んでいてもよかったし、スケッチをしていてもよかったし、ただ田園風景をながめていてもよかったのに、である。

東北は、山形は、関西に比べ、時間がゆっくり流れている。

山形、東北紀行その２

山形ではよく歩いた。

今回の山形旅行のホテルは、幸町と言うところにあるＣホテル。何しろ駅から遠い。歩いて１５分と言ったところか。去年泊まったＫホテルも、一昨年泊まったＷホテルも、もっと駅や中心地に、近かった。それらのホテルが、満室だったか、宿泊料が高かったからか忘れたが、とにかくこのホテルにしてしまった。山形や仙台の人に驚かれたのだが、16 日土曜日の宿泊費が朝食付きで、18,000 円だった。駅の設備も、典型的なビジネスホテルで、決して「よい」とは言えなかった。

とにかく、「おかげで」よく歩いた。そして、うれしいことにどこを歩いても、懐かしくうれしい。大学時代４年間過ごした街なので、「ここは確か、学生時代に一遍来たよな。」とか「こんなとこ、学生時代にはなかったよな。」とか、心の中で独りごちながら、ひたすら歩いた。例えば、山形の名所になっているらしい、「もみじ公園」。実は、大学を卒業した後、いや、今も、時々山形の夢を見る。その中に、樹木の美しい公園が出てくるのだ。確か、大学からもそう遠くなかった。その話を山形の人にしたら、「それは、もみじ公園だよ。」と言われた。

そして行ってみて、確かにここだった。もとは、と言っても江戸時代の話だと思うが、宝幢寺と言う寺院の庭だったらしい。それが、明治になり廃寺になり、山形市が買い取って公園にしたらしい。池泉回遊式の美しい公園だった。しかも、無料だ。

さて、もう一つ、ぜひ行きたい場所があった。それは、最上義光（よしあき）の墓所だ。最上義光と言えば、今日の山形の基礎を作り上げた戦国の大大名だ。石高は、伊達家や島津家と同等の、57 万石あったという。最上家は、義光の孫の代で改易にあったので、その「威勢」を示すものはあまり残っていない。しかし、山形城に行ってみるとわかる。とにかく、

城跡が巨大なのだ。

その義光の墓があるのが、光禅寺。実は、学生時代に一度訪れている。そして、その時から印象に残っているのが、４人の殉死者の墓だ。

墓石には、「追腹」とはっきり、刻まれている。「切腹」「ハラキリ」をこれほど、強烈にイメージさせる言葉はない。

僕は、「殉死」を描いた森鴎外の「興津弥五右衛門の遺書」や「阿部一族」を思いだしてしまう。「後者」では、「殿の側近の一人の武士」は主君の「後を追って、殉死する」許可を得ることができない。藩内で「臆病者」とさげすまれ、追い込まれた彼は、「油を塗ったひょうたん」で腹を切る。しかし、殿の許可を得ずに殉死したものは、それ自体が「背命」とみなされた。やがて、結局一族全員が、「藩」に抵抗して討ち死にする・・・。

「追腹」は、戦国時代の「悪弊」であり、のちに武士の政府である江戸幕府自体によって、その行為は厳しく禁止される。「阿部一族」では、そんなサムライの時代の理不尽が描かれた。ただ森鴎外は、この小説で、現在の日本でも、しばしば話題になる「同調圧力」といったものも、描きたかったのではないか。僕は、そんなことを考えながら、山形の町をひたすら歩いた・・・。

山　行

太　田　裕　士（理１回）

週間天気予報を見て、６月 11 日（木）に７年ぶりに鳥海山登山を試みた。家を５時に出て、湯の台の登山口を目指した。予報通り日差しもあり順調に車を進めることができた。鳥海高原を登山口のところの駐車場目指し車を進めた。しかし、道路の雪がまだ解けていないところがあり、下の駐車場に止めることになった。

準備をし、登山口を目指し歩みを進める。ナナカマドやショウキウツギなどが路肩に咲いている。

足を進めると、チングルマ、イワウチワなどが咲いていた。

ようやく登山口につき、山道を歩む。20 分ほどして滝の小屋を通過、すぐに雪渓を歩むことになる。雪渓の途中から山道に入り八丁坂を歩む。７月になるとお花畑の中の急な坂道を歩むことになる。

滝の小屋を通過してから１時間を経過し、河原宿に到着。７年ぶりここにきて山小屋が崩壊しているのを見て、自然の脅威には驚いた。

ここからいよいよ大雪渓を登ることになる。霧が掛かってきた。

雪渓を途中まで登ってきたが、数メートル先が見えない状態。休息をとり様子をみても回復することが期待できないので、残念ながら帰路に就くこととした。

「ふすま文庫」令和７年６月～令和８年５月

令和７. 6. 9	貝殻箸	・・・・・・・・・	澤渡貴彦遺稿集　(小関朋子寄贈)
11. 5	学寮たもん作品集	・・・・・・・・・	黒田多聞　(黒田多聞寄贈)
令和８. 1.10	第三歌集　薄雪草	・・・・・・・・・	加藤　啓　(加藤　啓寄贈)
2. 3	トコトンやさしい水質保全の本	・・・・・	高堂彰二/大岩敏男　(大岩敏男寄贈)
2. 3	トコトンやさしい土壌汚染	・・・・・・・	高堂彰二/大岩敏男　(大岩敏男寄贈)
2. 3	トコトンやさしい環境	・・・・・・・・・	高堂彰二/大岩敏男　(大岩敏男寄贈)
5. 8	小白川学作品集	・・・・・・・・・	小白川学(黒田多聞)　(野村一芳寄贈)
5.27	星先生を偲んで	・・・・・・・・・	星斌夫先生追悼文集編集委員会　(大宮富善寄贈)
5.27	中國社會經濟史語彙(正篇/續篇)	・・・・・	星　斌夫　(大宮富善寄贈)

各学部の退職教員

・人文社会科学部人間文化コース
　清塚　邦彦教授　(令和 8.3.31)
・人文社会科学部グローバル・スタディーズコース
　相澤　直樹教授　(令和 8.3.31)
　池田　光則教授　(令和 8.3.31)

・人文社会科学部経済・マネジメントコース
　洪　　慈乙教授　(令和 8.3.31)
　是川　晴彦教授　(令和 8.3.31)
・人文社会科学部総合法律コース
　コーエンズ　久美子教授
　(令和 8.3.31)

・理学部理学科化学分野
　栗山　恭直教授　(令和 8.3.31)

深　　悼

心からご冥福をお祈り申し上げます（令和８年５月 31 日まで受付分）

山高 20 回文甲	安部　勲	令和 6.11.5
山高 22 回理甲	片岡真一	令和 7.10.12
山高 24 回理甲	知久　明	令和 7. 9.30
山高 25 回理甲	結城久三	令和 1. 6
山高 25 回理甲	石川栄一	令和 6.
山高 27 回理甲	山戸利美	令和 7. 9.20
山高 28 回文乙	長沼修治	令和 7. 1
山高 29 回理科４	伊藤英夫	令和 6. 3.23
文理 1 回理数学	齋藤俊也	令和 7.12.15
文理 1 回理物理	菊地茂男	令和 6. 4. 2
文理 1 回理地学	齋藤勇夫	令和 7.6.22
文理 2 回文経済	清野榮夫	令和 6. 8.
文理 7 回文歴史	細谷良夫	令和 3. 2. 3
文理 7 回文経済	五十嵐良夫	令和 8. 3.20
文理 7 回理化学	山内計一	令和 6. 4.
文理 8 回文国文	細谷昌武	令和 6.11.
文理 8 回理数学	小原貞徳	令和 6. 7
文理 8 回理地学	藤井　享	令和 7. 2.24
文理 9 回文経済	高嶋晴也	令和 6.11.
文理 9 回文法律	我妻秀明	令和 7. 5.15
文理 9 回理数学	山川秦二	令和 6. 9.29
文理 10 回文経済	佐々木亘作	令和 6.10.29
文理 10 回理数学	冨樫忠義	令和 7.11.11
文理 10 回理物理	内海　健	令和 7. 5.10
文理 10 回理化学	相馬五郎	令和 7. 5. 9
文理 11 回理化学	根津隆二	令和 5.
文理 13 回理物理	杉本　毅	令和 7. 5.19
文理 14 回文経済	桃井　惇	令和 6. 8.
人文 9 回史学	佐藤洋一	令和 7.11.16
理　8 回化学	阿部純一	令和 7. 1. 4
理 17 回 物理	百足謙司	令和 7. 5.30
人文 48 回法経政策	千葉浩人	令和 7.4.27

以上　32 名

【本部事務局通信】

昭和５年に山形高等学校の同窓会として誕生したフスマ会は、ふすま同窓会を経て昨年 10 月１日に一般社団法人の設立登記を行い、百年の歴史に新たな１ページを加えました。

その機に合わせた訳ではありませんが 10 年ぶりに事務局長が交代し、小職が拝命しました。新しい革袋には新しい酒を、と行きたいところでしたが古希目前の少し饐えかかった酒で申し訳ありません。よろしくお願いします。

同窓会業務には新しい変革があります。

大きなもので言えば、１つは会報の電子版一本化です。紙ベースでの発行をやめ、ホームページへの掲載のみになりました。今回の会報がその第１号です。

さらにもう１つ、４年ごとに刊行していた会員名簿は今後発行しないことになりました。個人情報の保護がその一番の理由ですが、これまで業者に委託していたデータを、今後は本部事務局で電子データとして一括管理していきます。

冊子形式がなくなるのは寂しいという声もあるかと思いますが、電子データの一括管理には条件を指定してのデータ抽出が容易にできるという利点があります。

例えば、支部会員の把握のために○○県又は○○地方に居住する会員のデータが欲しいとか、同期会の開催のために昭和○○年卒の会員のデータが欲しいなどの要望に対応することが可能になりました。

会員からの要望があれば、新たに制定した個人情報保護方針に照らし可能な限り提供いたしますので、本部事務局にご相談ください。

最後になりましたが、定款に定める本同窓会の目的である「会員相互の連携及び親睦を図り、母校との連携を保ち発展に寄与する」ため、微力ではありますが頑張りますので、どうぞご協力をお願いします。

事務局長　尾﨑秀真（人文 10）

【広報部員のつぶやき】

今年は、冬季オリンピック、WBC、サッカーWC、アジア競技大会など、世界規模のメジャーイベントが続く 10 年に１度の特別な年とのこと。そう言えば、正月の駅伝に始まり、各大会が終わるたびにロスに陥っては、次のイベントでまた寝不足になりながらテンションを挙げる自分がいる。

気になるのは、クマ。散歩やジョギング、アウトドアにも時間や場所に制限がある近頃。市民も TV 観戦だけでなく、思いっきり屋外活動を楽しめる日常が待ち遠しい。

松田明子（人文１５回）

ある共働き夫婦が結婚する時の話だ。「対等な関係でありたい」と言った妻に、夫は「君が仕事を辞めても養うし、君の両親の面倒も見る。僕と同じことを君ができてこそ、対等なのではないか」と答えた。収入は夫の方が上。妻に夫と同じことはできない。つまり、収入が多い方が「上」だということなのか。子育てや介護を妻が担っている場合、彼の基準ではどう「加算」されるのか。彼の考えにはとても賛同できないが、人として対等であるとはどういうことなのか、考えさせられると同時に、こうした考えが、収入や性別、年齢による差別の根底にあるのだと痛感させられた話だった。

坂本由美子（理 28 回）

編 集 後 記

広報７４号から、経費等の負担が大きくなり、各家庭への送付をしないことになりました。同窓会ホームページでの配信となります。会員の皆様方より、なんでも結構ですので原稿を送付していただければ幸いです。

広報担当　太田裕士（理１回）

同窓会HP

同窓会FB

ふすま同窓会報　第７４号

発行者/社団法人山形大学
ふすま同窓会
電話・FAX/023-633-9927
https：//fusuma-dousoukai.jp/
E-mail:fusumadosokai@yahoo.co.jp
発行日/令和８年７月